

Vol.052

尚 和 会 報

2004

平成16年5月1日



拡がる同窓の輪、あの時のあの人は…



尚和会総会のご案内

平成16年5月16日(日) (受付11:30~)

ホテルアイボリーにて (豊中駅東口すぐ ☎ 06-6849-1111)

- 総 会 …………… オークッドホール 12:00~12:30
- 立食パーティー …………… オークッドホール 12:45~15:00
- アトラクション …………… ヴォーカルグループ アヴァロン
ビンゴゲーム



プロフィール

AVALONは女性2人男性1人で構成されたヴォーカルグループです。全く違う個性を持つ3人がシャンソン、カンツォーネ、アメリカンポップス、オールディーズ、日本のポップス、ハワイアン等を唄い、大人の方から若い方までお楽しみ頂けるショーを繰り広げます。

森崎 真知子 栗崎 博光 大倉 美子

- 会 費 …………… 4,000円 (2000年以降の卒業生2,000円)

発行——尚和会

発行責任者 田中 渡

編集責任者 大畠 光昭



二期目を迎えて

尚和会会長

田 中 渡

輝ける皐月おおぞらに光る大地、新緑の若葉がよりいっそう美しい頃となりました。平素は尚和会活動に格別のご協力を賜り篤くお礼申しあげます。

さて、このたび再び会長の大役を仰せつかり拝命いたしました。その重責に

あらためて身の引き締まる思いをしております。微力ながら努めさせてもらいますとともに、皆様方の絶大なご支援とご鞭撻を心からお願ひ申し上げます。

尚和会の事業として、昨年度は会報を卒業五年毎の各期の方々に無料送付しま



桜塚高校の近況

桜塚高校校長

長 瀬 尚

尚和会会員の皆様におかれましては各界で益々活躍のこととお慶び申し上げます。また、平素は桜塚高等学校の教育活動に何かとお力添えいただき誠にありがとうございます。去る二月二十七日、全日制第五六回、定時制第五四回卒業証書授与式が挙行され、全日制三五三名、定時制五四四名、計四〇七名が新たに尚和会会員として仲間に加えていただくことになりました。

が旺盛で進んで課題を見つけ自主的に協働する気風は健在です。例えば体育祭は華やかでありながら力強く統制も取れたパフォーマンスが好評で、保護者や地域の人々も楽しみにしています。本年度は六月十日（木）の予定です。

部活動も好調です。全日制では陸上競技部が、定時制ではバドミントン部が近畿大会と全国大会への出場を果たしました。ほかのクラブも全日制では八〇％以上の生徒が加入し、体育系文科系とも非常に活発です。定時制ではこのたび大

阪府より出された定時制再編整備計画で活発な部活動や自治会活動が本校の大きな特色に挙げられています。

本年度特に顕著なのは進路実績の大躍進です。本学入試では近年百名強で推移していたいわゆる『関関同立』のべ合格者数を一挙に百八十名以上に増加させました。国公立大学合格者もかなり期待できそうです。府立高校のなかの進学成績上位校としての存在感がいつそう高まっております。

また、専門学校進学者や就職者も数的に多くはありませんがそれぞれに目的意識を持った着実な進路実現を果しました。

昨年尚和会がPTAと共に寄付してくださった視聴覚教室のエアコン設備は全日制定時制共大いに活用し

した。同期会助成金と併せて広く有効活用され好評をいただいております。その結果、年会費及び協力金払い込み者数も七百人以上増加しました。皆様方の篤いご支援に深く感謝いたします。会員相互の情報交換の場としてさらなる紙面の充実を計れば幸いかと存じます。

また母校の特別教室に空調設備を母校PTAと同額負担で寄贈いたしました。在校生諸君の夏季補習授業の効率を高め、今春は関関

同立は言うにおよばず国立大学への進学者が大幅に増加したことはたいへん喜ばしく思います。

今後の課題としては、尚和会の活性化にむけ特に若い世代の人々に、尚和会に参画しやすい企画を検討するとともに、その若さや情熱を尚和会に注がれることを祈ります。

十七年度からの定時制課程

桜塚高校定時制教頭

森 尾 俊三

尚和会の皆様には、平素から定時制の教育活動にご理解とご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。

平成十七年度から定時制の課程が、新たに「単位制普通科」として、再配置されることになりました。平成十五年十一月二十五日に「府立高等学校特色づくり・再編整備計画（全体計画）」及び「実施対象校」が大阪府教育委員会から発表されたところです。

その中で「夜間定時制の課程は、昼間に働きのながら高校に入学を希望する生徒の他、様々な目的や事情により夜間に就学することを希望する生徒など、夜間という条件の中で目的意識を持って学習する生徒の就学の場として、教育内容の充実を図る。」さらに、「多様な生徒の就学を援助するため、単位制・二学期制を導入し、多様な教育課程を編成する。：等」とあります。

本校では、この方針を受け、次のような特色を打ち出し、さらに詳細な内容を検討しています。

・生徒と教職員とのコミュニケーションを重視し授業はもとより、自治会活動、部活動等学校生活全体を通じて、生徒一人ひとりに指導の行き届いたアットホームな学校を作る。

・様々な学習歴や興味・関心に対応した学校設定科目を含む選択科目を設置するとともに、実技・実習や体験学習を積極的に取り入れ、わかりやすい授業を工夫する。

・生徒が興味・関心に応じて系統的、発展的に学べるよう、体育・芸術、情報、教養等の種類の設置を検討する。

・学習の基礎・基本においては、チームティーチング、習熟度別授業などきめ細かい対応を行う。

・生徒の学びの機会を広げ就学を支援するために始業時刻前の授業（ゼロ時間目の授業）に取り組む。

・技能審査の単位認定や実務代替等の柔軟な単位認定制度を活用し、生徒の修学支援を図る。

・職業ガイダンスや総合的な学習の時間、特別活動を通じて、望ましい勤労観・職業観を育成し、卒業後の職業生活の充実を図る。

・様々な生徒の実態に対応して、生徒の学校生活、学習活動、心身の健康等のサポート体制を充実させるため、ガイダンスやカウンセリング機能の充実を図る。

以上のように、定時制に学ぶ生徒へのより良い教育環境・教育体制作りを目指して、教職員一同さらに取り組み進めたいと思っております。皆様の一層のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

卒業式の答辞で、代表の



山本雄助君が次のように述べています。「…この学校にしかない、人として大切な物が、たくさんあります。定時制ということで、仕事、アルバイトもでき、夜校の特徴である活発なクラブ活動と、自分自身を成長させる様々な経験が、この夜校ではできます。今回卒業する僕たちは皆、夜校に来て良かったと感じています。」

本校定時制を卒業していくことを誇りに思う卒業生をご覧になって、感動されたのではないのでしょうか。

この四月に四年制課程の男子三十三名、女子十二名、三年生定通併修課程男子四名、女子五名、合計五十四名が尚和会の会員に加えていただくことになりました。今後ともよろしくお願いいたします。

◆学校だより◆

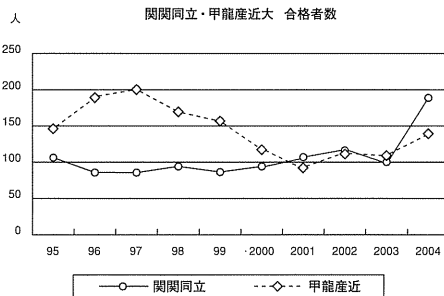
進路状況報告

進路指導部長 熊野 純

本校卒業生の進路は大きく変化しつつあります。その変化を簡単に申しますと「入れる大学から入りたい大学へ」ということになりました。現在、本校生の大半は四年制大学への進学を希望しておりますが、その進学先大学に変化がおきつつあるのです。

進路参考資料

国公立大	人数	主な私立大	人数
大阪市立大	5	関西大	69
大阪教育大	5	関学大	42
神戸大	1	同志社大	28
兵庫県立大	2	立命館大	25
神戸市立外大	1	甲南大	37
京都教育大	1	龍谷大	38
京都工芸繊維大	1	京都産大	15
京都市立芸大	1	近畿大	49
滋賀県立大	1	京都女子大	2
和歌山大	2	同志社女子大	4
三重大	2	神戸女学院大	7
高知県立芸大	1	武庫川女子大	17
東京都立大	1	京都外国語大	6
信州大	1	関西外国語大	13
富山大	1	大阪経済大	7
秋田県立国際教養大	1	大阪工業大	14
徳島大	2	佛教大	6
広島県立大	1	桃山学院大	9
下関市立大	1	追手門学院大	13
福岡県立大	1		
鹿児島大	1		
国公立大学合計	33		



このグラフは、過去十年間の関関同立大合格者数と甲龍産近大合格者を示したものです。グラフに示されている通り、数年前から両者の数がほぼ同数となり、今春の入試ではついに関関同立大合格者数が甲龍産近大合格者数を大きく上回るようになりました。ほんの数年前までは、関関同立大や国公立大学を志望する生徒は少数派であったのですが、現在では半数以上の生徒が関関同立大、或いは国公立大学を受験すると

いう状況になっております。こうした流れの中で、今春の大学受験では国公立大学、関関同立大ともに、過去十年間で最多の合格者を出すことができました。

こうした難関大学を目指そうという生徒が増加してきた背景には、大学で将来に役立つ実力をしっかりと身につけたい、という生徒達の大学教育に対する期待があるものと思われます。

出口の見えない不況、将来に対する不安、学力低下が憂慮されている大学生、そうした時代の中で、桜塚高校を卒業していった生徒達が自らの力で人生を築き上げていくことができるよう、進路指導部では単なる受験指導に終わらないように気をつけながら、本当に行きたい大学はどこなのか、本当にしたい勉強は何か、本当にしたい勉強は何かというのを一年の時から考えさせるような指導を行っています。なお、今春の進路状況（主な四年制大学）は左表の通りです。

三年間楽しかった

第 学年主任 高橋 俊行

今までの担任の中でこれ程充実していた三年間はなかったです。三回の遠足もしっかり覚えてるし、体育祭も、文化祭も……。生徒達と一緒にいろいろな会話ができたし、本当に楽しかったのです。体育館補修の為、合格者説明会は豊中市民会館で行い九クラスがスタートしました。それから三年が経ち、現在に到っています。五六期生は一日、一日たくましく成長して十八才となり、この三年の月日の重さを感じます。

振り返って書くとなると、シンガポール修学旅行、三年生の体育祭、そして自分のクラスはミュージカルをやった文化祭。

今となつてはテロとSARSの間をうまく行けたと思うシンガポールです。セントーサ島、マリーライオン、ナイトサファリ、現地学生との交流会、想い出いっぱいです。（ホテルが綺麗でした）体育祭、みんな真剣で、輝いていた。自分にもこんな時があったのかな？と思うぐらい、みんな違っていた。団長お疲れさん。

文化祭、自分のクラスのミュージカル。できるのかな？と思うスタートでしたが、全員が役割を果たし無事終了。クラスのまとまりを感じた日々でした。そして卒業……。淋しくなるというのが実感です。これを書いてる今は卒業式前です。どんな卒業式になるのか楽しみです。五六期生のみんな本当にありがとう。充実した三年間でした。

りを感じた日々でした。

そして卒業……。淋しくなるというのが実感です。これを書いてる今は卒業式前です。どんな卒業式になるのか楽しみです。五六期生のみんな本当にありがとう。充実した三年間でした。

北緯二十四度の楽園で すばらしい体験

第 学年主任 荒西 克招

五十七期生の修学旅行は、ハワイやマイアミとは同緯度上にある沖縄・八重山諸島で体験学習を行うことでした。はじめ生徒の中には十二月に沖縄で何をやるのか疑問の声もありましたが、百聞は一見に如かずの諭え通り、十二月十四日から十七日、天候にも恵まれ、事後のアンケートでも大変満足度の高い旅行となりました。

拠点となった石垣島、街には赤や黄色の花があふれ、二連泊した日航八重山ホテルも落ち着いてよかったです。思っています。（棧橋まで十五分程度も街の散策として適当な距離で、生徒たちはコンビニで夜の食料を調達したりしていました。）

大阪から来た私たちが驚かせたのは、何と言っても、あの透明度が高く、濃淡様々に青緑に輝く水と白い砂、リーフに縁取られた珊瑚礁の海でした。ガラスボートでのぞくと色とりどり、形もさまざまなサンゴや「ニモ」がくらくまのみなどの熱帯魚（ウミヘビを見た生徒もいた。）が迎えてくれました。こうした海でダイビングやシュノーケルをしたり、マングローブの川をカヌーや遊覧船で眺めたり、水牛車に乗ったり、サイクリングしたりと楽しみました。

赤瓦の家々が並ぶ竹富島（民家の他には警察も病院もなく、小学校と中学が一緒になった学校と郵便局、ビクターセンターぐらいしかない。）ではすばらしい海を前に、無人の遠浅の磯辺、プライベートビーチで波と戯れたり、郵便局から大阪の自分宛にはがきを書いたりしてのんびりと時間を過ごすことができました。

生徒たちのアンケートを呼んでみると自然のすばらしさ、守ることの重要さがよく分かったなど書いている人も多数あり、私自身も童心に返って楽しめるいい旅でした。



■ 母校 クラブだより ■

野球部

顧問 和田 充司

野球部ではここ数年、二月に「甲子園マラソン大会」と銘打つイベントを実施しています。試合もなく、単調になりがちな冬の練習期間のアクセントとして、始めた行事ですが、実際の甲子園球場とスタンドをみんなで見上げながら、今年の「思い」を確めた後武庫川河川敷に移動して、約十キロを競走。終了後、マネージャーの作った暖かい汁物（今年はコンソメスープ）をみんなではかれる、という内容です。

今年は、その際、望外の嬉しいハプニングがありました。球場前に集合した後球場の中へ入れてもらえたのです。詳しいいきさつはさておき、「本当にいいんですか」という思いのままネット裏スタンドから、一塁ベンチの中まで案内していただきました。部員一同感激の余り、言葉もあまり出ず、はるかかなたにそびえる（ように実際見える）スコアボードをながめ立ちつくしていました。私自身にとっても小学生の頃以来

あこがれ続ける「聖地」の様な場所であり、顔には出しませんが、心の中は震えていました。

後で、部員に書かせている「野球ノート」を見ると多くの者がこの時のことに触れていました。一人はこう書いていました。「甲子園球場に入れて本当に感動した。が、ちよっぴり悔しくもあった。なぜ悔しいかというと、今回はご好意で『入れてもらった』からだ。今度来る時は堂々と、選手入場口から入りたい。」

今回、それぞれが抱いた「思い」を一つにして、春夏の大会に臨みたいと思っています。御声援のほど、よろしく願います。

ラグビー部

顧問 渡辺 宗治郎

今年は十六名の三年生が卒業するとあって、部存続の危機に直面した。しかし二年生五名、一年生十四名とかわうじて生き残ることができた。新チーム初の公式戦である近畿大会府予選は一月に開幕し、見事二回戦に進むことができた。相手チームの棄権による不戦勝利であったが、試合当日に十五名が揃う事の難しさを物語った結果での初勝利であった。

我々の第一目標である公式戦フルラグビー（十五人制）の部出場の達成である。寡黙なキャプテン安田と陽気な一年生部員たちが織りなす雰囲気は先がつかめないものの限らない成長の可能性を秘めている。

フィットネス、スキル、スピリッツいわゆる3Sの向上を図るにはあまりにも時間的環境が不足している。しかし部員たちの持つ目標と練習意欲、それに顧問が描いているチーム力到達目標が合致すればスムーズな部活動が展開されるはずである。今年の一年生部員は週三日の朝練習を自主的に実施し、しかも全員が顔を揃える熱の入れようである。ひよつとして大それた事を考えているのではないだろうか。新しい伝統が生まれさらにチームの第二の目標が明確になりそうである。

陸上部

マネージャー 久次米 彩子

陸上部は現在男子十七名、女子五名、マネージャー三名「笑顔で練習」をモットーに毎日放課後活動しています。昨年の六月には三年生の三名の選手が地区予選を突破し、近畿大会に出場しました。近畿大会で

は、それぞれが力を出し切り、結果熊内幸啓君が三段跳びで全国インターハイへの出場を果たしました。全国から勝ち残ってきた強豪達の雰囲気は圧倒され思うように実力が発揮できませんでした。が、熊内君のインターハイ出場を契機として、後輩達には先輩に続くという目標ができました。

三年生の引退後、十一月、一月の駅伝で、長距離のメンバーが一本のタスキを最後までつなぎ、冬にはシーズンオフとなる短距離は、筋トレ中心のメニューで体力づくりに励み、精一杯頑張っています。土曜にはトレーナーの方を招き、細かいトレーニング方法も教えていただきました。

四月からシーズンに入り記録会、インターハイ地区予選、中央大会、総体など年間を通じて多くの試合が始まります。それぞれが自分自身の目標を高く持ち、日々努力していきたいと思っています。

男子バレー部

顧問 古橋 美知子

五十六期生から贈られた花束から漂よう素敵な香りに包まれながら、この原稿を書いております。

このチームは、背の高い生徒が集まり、スパイクやブロック力が持ち味でしたが、怪我に付き纏われ、なかなか思うような練習ができなままの引退となってしまいました。

エースアタッカーは、主将の南君、セッターは、高島君と宮本君、セッターには山田君、リベロは福本君と土井君、控えにサウスポールの宮津君・オールラウンドの樋口君と檜垣君。

そして、マネージャーの與田さんと飯田さんには本当によく働いてもらいました。ありがとうございます。

次の五十七期生のチームは、粘りのあるチームで一部昇格を狙いたいと思っております。主将辻村君を中心に練習に励んでおります。

短時間で効率良くと考えますと、先輩方の力が必要となります。現役と共に汗を流し、コーチをして頂くとうり難いのですが、相変らず、サイドの狭い体育館ですが、思い出の詰まったあのコートに再び立つてみられませんか。お待ち致しております。

女子バレー部

顧問 津田 康裕

五十六期生の四月の部別

は旭高校・春日丘高校・枚方高校の三チームリーグでした。三試合ともボールを落とすまいと必死にがんばりましたが、残念ながら○勝三敗に終わりました。

五月の豊能大会は、いつも合同合宿をやっている刀根山高校と対戦。お互いに手の内を知りつくして大接戦になりましたが、最後は攻撃力に勝る相手に惜敗しました。

六月のインターハイ予選は、近畿大会の予選も兼ねていて、公立高校の生徒が最大目標にしている大会です。高校入学以来、この大会での勝利を目指して、暑い夏場の体育練習や、冷たい風が吹く中でのロードワークに励んできました。そして、三年生にとっては「引退試合」にもなります。

三年間の想い出と練習成果を発表する場で、住吉高校との二回戦は最後まで生徒たちの気力が持続した試合でした。二セットとも紙一重のところでも相手にセットを奪われ、五十六期生の試合は終わりました。試合後の生徒たちは、力を出しつくした充実感が顔に浮かんでいました。

先輩たちからバトンを引き継いだ五十七期生は、「元氣あふれたチーム」を目指してスタートしました。体育館でもグラウンドで

も存在感を示すことが生徒たちの課題でしたが、練習試合の相手校指導者から「桜塚の生徒はとつても元気ではきはきしていますね」という言葉を再三かけて頂きました。普通の公立高校のチームに対しての最大の賞賛の言葉だと思えます。

その五十七期生は八月に公式戦を二つ戦いました。大阪総体予選では刀根山高校に敗れましたが、二週間後の府立高校大会では、地区予選で二勝一敗の成績を残して中央大会へ進出。

中央大会は強豪泉北高校と対戦。普通の高校生ならその名に気後れするところですが、試合終了まで敢闘精神でがんばり抜きました。内容はワンサイドであつてますがさすがに残る試合だつたと思えます。

十一月の部別は三部で戦う。優勝した池島高校や二位の大阪市立東商業高校ともゲーム内容では勝っていたが、細部の詰めが甘く、勝利を逃がしました。

この五十七期生と五十八期生はいろいろな面でよくがんばっています。練習時間の少なさは桜塚高校独特のものですが、生徒たちは練習の質を大事にするだけでなく、少しでも時間があればボールに触れようとしています。その努力が試合

にまだ出ていないところが生徒たちにとって辛いとは思いますが、きつとその努力が報われる日が近いうちに来ると確信しています。

この一月に対戦した大阪女子短大付(全国レベルの力がある)とラリーグが続いたことは、新チーム発足以来の努力が実を結びつつあることを示しています。今後楽しみな集団です。

女子バスケットボール部

顧問 高橋 俊行

先日の新人大会では接戦を勝ち上がり、北地区三位となり、平成九年から続いている中央大会出場を果たしました。今回は桜塚六期生の大先輩方の応援も頂き桜塚の重みを感じた公式戦でした。今回のチームは豊中の大会も優勝して期待できそうなのですが、女子のボールが七号球から六号球に変わりそれに対応できるかがポイントとなります。桜塚の女バスの強さは、卒業生“だ”と思います。

合宿だけでなく、休日の練習、練習試合、公式戦など誰かが来てくれて後輩と一緒に練習してくれています。それが桜塚の女バスを支えてくれている大きな力だと信じています。卒業生みんな、ありがとう！

吹奏楽部

顧問 河村 光子

二〇〇四年 五月二日 私達は第十五回目の定期演奏会を迎えます。今、部員達は選曲を終え楽譜を揃えて練習を始めています。自分達の演奏力も考えながらお客様に楽しんで頂けるステージ構成をという曲選びはなかなか難しいのですが、何度かミーティングを重ねながら決めていきます。一方で演奏会には会場費、楽器運送費等多額の費用が必要となるので、練習の終わった放課後は協賛金をお願いに歩きまわります。新カリキュラムで「自ら課題を見つけ自ら解決する総合学習を」といわれています。彼らはまさにこのことを毎日の活動の中で実践しています。「こんなにもいろいろなことを自分達でやらなければいけないの？」という思いはそれが達成できた時には大きな喜びとなって返ってきます。

四月に入って来る新一年生部員は先輩に楽器の割り振りをしてもらい基礎練習を始めますが、定演当日は裏方の仕事を引き受けられます。三年生はステージもいよいよ最後となると涙も止まらず、私達も感動に浸る一瞬です。

夏合宿のあとはコンクール、秋には豊中市、第一学区、大阪府と音楽会が続きます。冬はアンサンブルコンテストと休む暇もない一年間ですが、練習メニューもすべて生徒達で相談して決めている自主運営の伝統は胸をはって良いと思います。

市街地にある学校ゆえ、少し外で音を出したりするとすぐに苦情が来たりしますが、工夫しながら練習しています。

桜塚高校吹奏楽部の演奏はいつものびのびしています。本当に音楽が大好きな生徒達ばかりです。悩みといえば古くなってきた楽器を買い替えたいのにお金がないということくらいでしょう。楽器は少しほろですが彼らは心に響く音を鳴らしてくれまます。機会があればどうぞ演奏を、お聴きください。

美術部

顧問 越智 秀樹

二〇〇三年度の美術部員は、三学年合わせて十二名(男子三、女子九)で小所帯ながら意欲的な活動を行っています。府レベルの展覧会へは、毎年、夏の「高校展」と冬の「芸文祭展(コンクール展)」の二つに出

品しています。昨夏の高校展は三年樫永君が優秀賞(この作品は十一月大阪で行われた高等学校美術工芸教育研究会の全国大会の会場に選展示されました)、二年黒田君と一年令官君が奨励賞を受賞し、他の部員も全員油絵・デザインの大作出品して頑張りました。当・落のある冬の芸文祭展では、油絵は六人中三点入選しましたが、デザインは残念ながら二点ともあと一步のところで入選を逃しました(デザインの入選率は30%未満と最も厳しい)。この結果はまずまずといえますが、制作に取り掛かるのが遅れた分完成度の浅さが出たかと思われま

す。ほかに、箕面市民センターで行われる第一学区の高校展(今年度は二月)にも毎年出品しています。

校内では、文化祭で、作品展示のほか十年ぶりにバザーに参加して、シルクスクリーン印刷の十種類のポスターカードを作り三〇〇枚を完売するなど大いに盛り上がりまました。また、他に特筆すべき活動としては、岡町桜塚商店街から依頼のあった店のシャッターのペイント制作があります。三月中旬に完成予定です。こうしたバザーやシャッターペイントなどの新しい

活動ができたのは、昨年度中心になって活動した五十六期生の意欲的な取組みに刺激されたのと、部長の土谷さんのリーダーシップと部員のチームワークが例年以上に良かったところによるものでしょうか、顧問としても今後繋がるものと頼もしさを感じているところです。近年、新入生の関心が運動系クラブに偏っている中で「文科系クラブここにあり」といったところが示せればと期待しています。

新しいといえば、美術部OGのこの十年の高校展等での受賞作品(学校に残してくれている)を昨年九月に「岡町アートランド」で展示させてもらう機会がありました。急な話で作者の皆さんにはお知らせ出来ませんでした。多くの方から好評を頂きました。



各 期 連 絡 先

期	氏 名	電 話	期	氏 名	電 話	期	氏 名	電 話	期	氏 名	電 話
女1	越 水 ュ リ	06-6852-8755	高21	山 本 登志恵	06-6924-3544	高49	富 田 賢 次	06-6334-4372	定27	稲 井 幸 雄	072-728-0955
女2	北 川 富美子	0798-74-3024	高22	平 本 裕 一	06-6855-2614	高50	笹 岡 哲 治	06-6302-3883	定28	真 下 保 保	06-6385-6190
女3	森 玲 子	06-6863-5125	高23	後 藤 保 二	06-6373-7380	高51	井 上 史 臣	06-6864-8062	定29	寒 川 悟 悟	06-6607-0580
女4	永 井 徳 子	06-6942-1968	高24	梅 田 純 子	06-6329-6309	高52	西 口 達 也	06-6395-1246	定30	大涯地 みゆき	06-6333-5761
女5	加 藤 恵 美	06-6872-6248	高25	小 合 孝 子	06-6855-3604	高53	松 下 優 二 郎	06-6309-2015	定32	市 村 孝 浩	06-6841-0416
女6	青 木 操 子	06-6843-2552	高26	金ヶ江 裕 之	06-6852-1224	高54	岩 本 泰 毅	06-6302-1643	定34	清 水 美 佳	072-761-3323
女7	黒 田 長 子	06-6854-5432	高27	戸 田 緑	06-6875-7718	高55	正 月 聖 児	072-753-3653	定37	渡 部 二 郎	06-6863-0058
女8	中 村 陽 子	06-6844-1570	高28	市 田 隆 士	0595-52-0715	高56	梶 本 晃 史	06-6841-8830	定38	中 村 保 保	06-6332-7703
高1	安 達 良 子	072-721-3901	高29	山 沢 健 二	06-6399-7677	定1	吉 本 喜代子	072-722-2075	定39	森 本 真裕美	06-6849-7859
高2	菊 池 芙 美	06-6852-4117	高30	木 村 慶 子	06-6853-9213	定3	上 田 孝 彦	06-6853-2162	定41	奥 田 康 弘	06-6388-7339
高3	谷 田 探 成	06-6314-0550	高31	榎 香世子	06-6393-7216	定5	橋 本 昌 員	06-6854-0234	定42	菊 永 以 言	06-6853-6044
高4	中 右 吉 信	06-6855-5372	高32	浜 辺 伊都子	06-6866-6789	定6	木 田 隆 幸	06-6864-2452	定43	山 田 辰 典	06-6333-1785
高5	宮 口 一 郎	06-6852-4859	高33	池 本 清 人		定7	都 倉 昭 次	0797-84-7663	定44	大 塚 俊 二	072-762-7873
高6	北 まち子	06-6865-3131	高34	山 口 誠	072-894-1848	定8	田 邊 昭 夫	06-6843-0952	定45	大 塩 昇 司	06-6331-5766
高7	長谷川 伸 一	06-6848-1563	高35	川 嶋 道 代	072-729-6099	定9	大 谷 収	072-844-2311	定46	岡 田 智 寛	06-6333-5996
高8	森 田 司 朗	06-6872-3329	高36	安 藤 昌 博	06-6832-7930	定11	永 井 敏 輝	06-6852-0333	定48	野 口 光 弘	06-6393-3669
高9	安 浦 果	072-737-0068	高37	高 崎 建 治	06-6623-6801	定12	笹 部 修 造	06-6852-0475	定49	大 鳥 正 登	072-761-1036
高10	唐 渡 吉 則	072-752-4548	高38	堀 田 繁	054-248-8078	定13	中 岸 澄 江	06-6843-5737	定50	宮 本 透	072-721-4719
高11	吉 田 和 久	06-6857-0352	高39	須 崎 康 広	072-752-6441	定14	杉 本 土 生	072-728-1497	定51	徳 留 三 香	06-6866-6994
高12	斎 藤 嘉 明	072-738-4647	高40	堂 前 直 子	06-6336-7265	定16	森 島 作 蔵	06-6857-6219	定52	安 富 康 太	06-6852-5774
高13	細 川 和 彦	06-6849-6879	高41	坂 口 大 介	06-6303-4831	定17	前 田 政 治	06-6855-8451	定53	山 下 武 徳	06-6857-3239
高14	佐 藤 勝 哉	06-6854-0095	高42	谷 尾 紀 江	048-946-3601	定18	中 島 健 二	072-722-8153	定54	山 本 雄 助	072-724-2347
高15	大 島 光 昭	06-6841-8135	高43	横 尾 さち子	06-6854-0026	定19	飯 田 悦 弘	06-6855-3440	修1	矢 野 和 美	090-1904-0180
高16	中 務 公 子	06-6858-4509	高44	倉 谷 実	06-6302-2184	定21	児 玉 幸 子	06-6862-1946	修2	能 勢 優 紀	06-6841-2919
高17	福 本 育 馬	06-6333-6636	高45	田 中 英 二	06-6395-7828	定22	西 田 惣 一	06-6850-2955	修3	畠 山 貴 徳	072-728-1150
高18	北 川 悟 司	06-6843-1336	高46	佐 井 勇 介	06-6391-0995	定23	豊 隆 司	06-6843-2771	修4	竹 田 大 河	06-6841-4820
高19	奥 田 敏 輝	06-6843-9397	高47	大 西 順 子	06-6391-8404	定24	日 紫喜 富 美				
高20	郡 守 男	079-565-2627	高48	牧 原 広 宣	072-721-5292	定25	大 町 裕 次	06-6862-7083			

平成16年度
評議員会及び理事会予定表

評議員会

- 第1回 16年 9月 4日 (土) 会費制 会場未定
第2回 17年 3月26日 (土) 尚和会議室

理事会

- 第1回 16年 5月 8日 (土) 尚和会議室
第2回 9月 4日 (土) 会費制 会場未定
第3回 11月 6日 (土) 尚和会議室
第4回 17年 1月16日 (日) 新年理事会
会費制 会場未定
第5回 3月19日 (土) 尚和会議室

尚和会平成十六年度
役員紹介

会長 高二期 田中 渡
副会長 高三期 中村千穂子
(行事担当)

定七期 田邊 昭夫
(総務担当)

高一二期 吉田 和久
(財務担当)

高三三期 細川 和彦
(広報担当)

高一五期 大島 光昭
(広報担当)

高一三期 中岸 澄江

会計監査 高一六期 秋山日東志

会計 高二二期 吉田 友子

高一二期 久瀬 恭子

東京支部長 高七期 井上 眞一

教職員人事異動 (平成十六年度)

全日制課程

退職

越智 秀樹 (教諭 美術)

(本校教諭再任)

森田佐和子 (教諭 数学)

(本校非常勤特別嘱託)

一色 愛子 (教諭 英語)

(京都共栄学園)

転出

友田 芳子 (教頭)

(豊島高校)

万野 浩稔 (主査)

(寝屋川高校)

三木 敏次 (教諭 地歴公民)

(池田北高校)

古橋美知子 (教諭 保健体育)

(交野高校)

毛利 玲子 (教諭 英語)

(池田北高校)

上山 望 (教諭 数学)

(根木高校)

名里利恵子 (講師 家庭)

(布施北高校)

三原 千秋 (講師 数学)

(福井高校)

西 真知子 (実習助手 理科)

(池田高校)

着任

中村 恵 (教頭)

(豊中養護学校より)

山本 哲朗 (教諭 地歴公民)

(西淀川高校より)

定時制課程

退職

工藤 喜一 (課長補佐)

(豊能府税事務所)

桂 壽一 (教諭 数学)

(本校非常勤特別嘱託)

熊谷 知子 (教諭 数学)

(守口東高校より)

河野 太 (教諭 数学)

(新採用)

尾島 秀子 (教諭 保健体育)

(刀根山高校より)

鎌田 順子 (教諭 英語)

(渋谷高校より)

中村まじか (講師 理科)

(新採用)

中島 英樹 (実習助手 理科)

(茨城西高校より)

長谷川 修 (教諭 数学)

(箕面東高校より)

津村 健二 (教諭 理科)

(桃谷高校より)

片山 徹 (教諭 理科)

(西寝屋川高校より)

伊藤 将史 (講師 保健体育)

(新採用)

内藤 泰宏 (教諭 数学)

(本校非常勤特別嘱託)

小川 勇蔵 (教諭 数学)

三村 仁 (講師 理科)

(大手前高校)

有田 和子 (主事)

着任

楠井 輝明 (課長補佐)

(府教委教育政策室総務)

企画課より



平成十六年一月十八日（日）に、伊丹シティーホテルにおいて、新年理事会が開催されました。当日五十三名の方々のご出席を賜り、大変ご多忙中の折、厚くお礼申し上げます。

さて、理事会、評議員会においても業務執行については、まず学校当局を始め、会員の皆様のご協力なくして進めることができませんので、今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。さて、今後の行事委員会の担当は次の事項です。

平成十五年度 新年理事会について 行事担当副会長 岡島 勇

一、平成十六年度
新年理事会の開催
二、平成十六年度
総会の開催
平成十六年五月十六

尚和会 平成15年度決算報告・16年度予算

〔収支決算〕（自：平成15年4月1日 至：平成16年3月31日）

（単位：円）

科 目	予 算	決 算	差引過不足	備 考	16年度予算
収入の部					
入 会 金	1,672,000	1,672,000	0	418名×4,000円(全354、定64)	1,628,000
年 報 年 会 費	1,200,000	1,703,000	503,000	1,703人	1,400,000
尚 和 会 協 力 金	1,800,000	2,388,718	588,718	986人	1,800,000
広 告 収 入	60,000	0	▲60,000		60,000
利 息 収 入	1,595,000	1,870,053	275,053		200,000
雑 収 入	0	4,000	4,000	名簿販売1冊	0
計	6,327,000	7,637,771	1,310,771		5,088,000
支出の部					
事 務 費	100,000	63,897	36,103	事務用品、コピートナー他	100,000
振 込 手 数 料	100,000	108,820	▲8,820		110,000
通 信 ・ 交 通 費	300,000	255,491	44,509	会議案内等の葉書印刷、宛名シール	350,000
会 合 費	300,000	272,242	27,758	理事会及び各委員会合費	300,000
慶 弔 費	100,000	47,010	52,990	学校行事祝儀他	100,000
会 館 維 持 費	30,000	3,864	26,136	ほうき、急須	50,000
卒 業 生 記 念 品 代	50,000	80,000	▲30,000	卒業証書入れ	100,000
会 報 発 行 費	2,000,000	1,929,304	70,696	11,000部、郵送8,310件	2,200,000
総 会 費	700,000	605,692	94,308	食事、アトラクション、雑費	700,000
東 京 支 部 援 助 金	150,000	150,000	0		150,000
同 期 会 開 催 助 成 金	400,000	500,000	▲100,000	50,000×10件	500,000
予 備 費	1,700,000	1,322,500	377,500	特別教室空調設備(50%分担)他	300,000
計	5,930,000	5,338,820	591,180		4,960,000
1. 差引当期収支	397,000	2,298,951	1,901,951		128,000
2. 前期繰越金	1,291,130	1,291,130			1,590,081
3. (1+2)合計	1,688,130	3,590,081			1,718,081
4. 尚和会積立金等繰入		2,000,000			
5. 尚和会積立金等取崩		0			
6. 次期繰越金		1,590,081			

〔貸借対照表〕（平成16年3月31日現在）

（単位：円）

借 方	貸 方
現 金	221,052
普 通 預 金	3,448,301
定 期 預 金	12,610,741
定 額 貯 金	9,032,000
未 収 入 金	117,987
合 計	25,430,081
預 り 金	1,640,000
尚 和 会 積 立 金	14,000,000
尚 和 会 事 業 積 立 金	8,200,000
次 期 繰 越 金	1,590,081
合 計	25,430,081

以上、報告いたします。

監査の結果、誤りのないことを報告します。

平成15年3月31日

平成15年3月31日

財務担当副会長（高13期） 細川 和彦
会計（高12期） 久瀬 恭子
会計（高12期） 吉田 友子

会計監査（高14期） 吉田裕理子
会計監査（高16期） 秋山日東志

日（日）午前十一時
三十分より（於 ホ
テル アイボリー）
ところで日本が生んだ巨
人 安岡正篤先生（明治三
十一年大阪府生まれ、昭和
五十八年十二月逝去）が述
べられている中で、生命の
本質とは、他の生命を手助
けするところにある。と述

べられています。「どの生
命も他の生命の食物とな
り、その生命の血となり肉
となつて、その生命を支え
ているのだから、人間も他
の人々のお役に立つてこそ
生きた甲斐がある。」と言
われています。私もそれに
深く同感します。又「王道
とは、自然に則つて無理の

無い生活をする、無理
を抑制せず、情味を以つて
事を行なうこと」「王道と
は民衆の欲望を否定せず、
増長せしめず、自然に即し
て、人間の福祉を増加向上
せしめることである。」と
も仰っています。

卒業年次は異なるでしょう
が、又卒業後の進路など異
なるでしょうが、校友の一
員として各界でご活躍の事
と存じます。お互いに母校
のことを語り合い、母校桜
塚高校を「ふるさと」とし
て思い出して下さい。来る
べき総会にお会い出来る事
を楽しみにして居ります。

尚和会通信

広報担当副会長 大畠 光昭

一、尚和会会報の無料配布

(卒業後五年毎)

無料配布対象期

その期が、卒業後五年経過ごとに、住所判明者を対象として全員に送付する。

目的・理由

会報有料制は、約二万人にも及ぶ無料配布の結果財

政が逼迫し、やむなく採られたものであります。これを機に多くの会員の方が危機を認識され、それ以降会費・協力金が増加し毎年プラス収支に転じることができました。

一方、会費納入を一度忘れられるとそれ以降会報が発送されなく、尚和会の先細りの懸念が生じはじめました。これを防ぐ手段の一つとして、財政の許す範囲

という条件付きで昨年度より実施中です(効果が無ければ、見直すことになりました)。

お願い

会報有料制は引き続き継続されますので、無料配布に当たる期の方も、会費・協力金は引き続き宜しくお願いいたします。

また、ちょうど各期が五周年単位に当たる年の五月

に、その期に対し会報が無料です。送付されますので、「同期会開催予告」として二月末までに会報の原稿を寄せていただければと思います。

二、「同期会開催支援奨励助成金制度」

一、目的

新世紀に向けて、新生尚和会を構築し、創造的な事業活動を展開するために、同期会の活性化に取り組む必要がある。その意味で、同期会の開催を支援、奨励する目的の制度である。

二、助成金交付対象期

尚和会会員が同期会を計画、開催実施しようとするもので、その同期会が卒業五周年以降五周年単位で開催される期であること。なお、卒業後最初の同期会が右記の周年でなくても助成金を交付する。

三、助成金の額

五〇、〇〇〇円とする。

四、申請の手続き

開催する同期会の代表幹事が書面(同期会助成金交付申請書)にて、尚和会会長宛に同期会開催一ヶ月前迄に提出又は郵送する。

「同期会助成金交付申請書」受理後速やかに同期会開催迄に支払う。

六、実施日

平成十三年九月一日より

なお、同期会に対する助成は同じ期が同じ周年時期に複数の場所で開催されても、尚和会からの助成金交付は、その期に対して一回限りです。また、クラス単位での開催も対象外です。

三、クラブ活動に

報奨金制度発足朗報!!

クラブ活動に顕著な成績を残したクラブに、活動費の一部を助成する制度です。助成対象は府下大会にて優勝またはそれに準ずるものとし、過去には野球部や定時制のサッカー部が記憶に新しいところで、在校生諸君の活発な活動を期待します。

尚和会会報有料制について

財務担当副会長 細川 和彦

今お読みの尚和会会報は有料制です。

●名称 会報年会費

●年会費 1,000円 (同封の払込用紙にてお振込み下さい)
払込用紙紛失の方は 口座番号00930-3-31860
加入者名「尚和会」宛お願いします。

●会報発送対象者

卒業年	卒業期	会報発送期間
平成16年	高56期 定54期	平成16年から5年間平成20年迄
平成15年	高55期 定53期	平成15年から5年間平成19年迄
平成14年	高54期 定52期	平成14年から5年間平成18年迄
平成13年	高53期 定51期	平成13年から5年間平成17年迄
平成12年	高52期 定50期	平成16年のみ
平成11年以前	高51期 定49期以前	毎会計年度末(3月31日)を年会費納入期限とし、会費納入者に対し、次年度のみ会報を送付。

尚和会の活動をホームページでみられます

桜塚高校のホームページの中で
同窓会をクリックしますと尚和会の
活動報告がご覧いただけます。
桜塚高校のホームページの
次のアドレスです。

www.osaka-c.ed.jp/sakurazuka/z/

	高女 1期~8期	併中 1期~2期	高 1期~55期	定 1期~53期	定通修 1期~3期	旧職員	現職員	現職員 (定時制)	合 計
会 員 数	2,061	229	25,423	4,078	22	673	39	22	32,547
物 故 者	325	18	567	80	0	133	0	0	1,123
住所不明者	223	31	5,292	1,944	2	165	0	0	7,657
住所判明者	1,513	180	19,564	2,054	20	375	39	22	23,767
判 明 率	89.2%	86.5%	79.2%	52.3%	90.9%	75.5%	100.0%	100.0%	76.5%

尚和会会員数 単位:人



同期会報告

豊女一期生会

日時…平成十五年六月十日
七日

場所…ホテル竹園芦屋

梅雨の最中、台風も近づいている予報に心配していましたが、天の女神も、私共に味方して下さって、まあまあのお天気で本当によかったです。芦屋駅に案内役として立つてもらったこともよかったですと思います。

定刻・会場前玄関で記念撮影・遠方より来られた方を前列にして。この写真はお帰りの時にはお渡しできま



した。

コスモスの間の向い側の部屋使用の方から、拉致問題についての署名を乞われ、世界を結ぶ海の色、青いリボンを胸に会が始まりました。元氣に出席できたことに感謝しつつ乾杯！例年のように越水さんが進行役になって、マイクが回りはじめ、自己紹介・近況と、思い出に華を咲かせました。

その間、矢野さんが健康体操の指導をして下さったり、名古屋から出席された西水さんから、昭和十三年一・二年合同学生会のプログラムを持参下さり、独唱・ピアノ・英語暗誦・武道難刀型など、懐かしい学校生活が蘇りました。最後は榎谷さんの堂々たる謡曲でしめくり、来年を約して笑顔で散会しました。(阿部・奥・岸本・吉村 散桜)

幹事 瀬戸・多田・横川・武藤千代子記

豊中高女二期生会 卒業六十周年記念

日時…平成十五年四月十五日(火)

場所…ホテルグランヴィア 東京都 今昔の間

出席者…四十七名

桜も散り始める四月半ば、ホテルのロビーは心地良い興奮で盛り上っていました。ぞくぞくと集って来る二期生の殆どが、案内の葉書を見る迄、六十年もの年月が過ぎたとは思っていませんでした。先にたつ懐かしさを、そつと胸の名札で確かめ合うような出会いでしたが、テーブルを囲む頃には、長い年月、生き抜いた喜びを分かち合う気持が、今昔の間に満ちていました。



私達が、小さな古墳が点在する、見渡す限りの広い原っぱの新校舎に入ったのは、昭和十三年の春、日中戦争勃発の次の年でした、赤瓦の屋根の鐘楼では、大、中、小、三つの鐘が澄んだ音色を空に吸わせ、雲雀の

卒業三十周年の会で、「あの時代の公立校としては異色だったのでは？」という疑問に渡部元先生が「当時の政府の教育方針に批判的で、とらわれない考え方を持った先生方が集まっていたから」と説明して下さいました。

日 時…平成十五年五月十日
二日
場所…平安神宮会館 迎賓殿

連日梅雨のはしりの様な天気つづきで心配しましたが雨も上り、新緑の平安神宮会館の迎賓殿で同期会を開催しました。

京都…この響きが皆様をお誘いしたのでしょうか：関東より五名前日より泊りがけで：。四国からは二名：全員四十五名の出席で七十半ばとは思えぬ華やかな顔！顔！

早速朱塗りの社殿をバックに記念写真をとりました。



私達が、小さな古墳が点在する、見渡す限りの広い原っぱの新校舎に入ったのは、昭和十三年の春、日中戦争勃発の次の年でした、赤瓦の屋根の鐘楼では、大、中、小、三つの鐘が澄んだ音色を空に吸わせ、雲雀の

宿泊組は、少女時代にかえったように、夜おそくまで、話に華が咲きました。翌朝満ち足りた思いで帰路につきましました。

今回、恩師武井鏡一先生の計報に接し、又同級の野口恒子(峰松)さんのご逝去を知りました。心からお悔やみ申し上げます。

幹事さんお手配誠に有難うございました。

高女二期生 報告係

た。卒業後初めて出席の方もあり、夫々自己紹介してセーラー姿の面影をなつかしみ、きびしい戦中の学生生活、戦後の子育てにも力強く生抜き、今のあふれる飽食時代に、ただただ驚くばかりの年代！とても頼もしく感じました。

有効期限切れの体にならない様、先づ脚、腰鍛えて！とのけがましに、二時間余りアツと云う間に過ぎました。

見事な、しだれ桜も散り急ぎ今は静かな神苑を拝観する方々、夫々に来年の神戸での再会を楽しみにお別れしました。

十一月に高山道子様が急逝されました。心からご冥福をお祈りいたします。

幹事
岡村 本田 松本 宮本
仙台 山田

高女五期生同窓会

日時：平成十五年五月八日（火）

場所：奈良ホテル 金剛の間

出席者：五十八名

新緑の古都にご案内を出し、皆様との再会を楽しみにしていただきましたのに、なんということでしょう、その



日は大雨で明けました。その上雷まで鳴る有様、嵐にご案内はしなかったのに、お足元の悪い中皆様に来てくださったから、幹事六名ははらはらして待ちました。でも雨に濡れながら全員集まってくれました。ホテルの玄関前での記念撮影後開会。

最初に、亡くなられた恩師、級友を偲び黙祷を捧げました。この日集えたのは幸せなことだと喜ばねばならないでしょう。年を重ねたとはいえ、どこかに昔の面影を残している笑顔はそう語っているようでした。会食は奈良名物の茶粥御膳、案外好評だったようでほっとしました。それぞれの近況、また欠席の友人の消息など語り合ううち、楽しい刻は本当に短く、話し

足りないまま閉会の時刻がきてしまいました。次回は豊中の方々に引き継ぎ、また元氣にお会いできるよう期待して散会。そのころには幸い雨も上がっていて、お帰りの道では奈良の緑を楽しんでいただけたことと思います。

幹事
井上 梶本 高橋 森岡
和氣 土田

「チエホフの名言」に促され

高四期 松田 祝三

昨年暮れの十二月八日（月曜）、高四期有志（別称昭和シングル会）は、梅田の新版急ホテルで忘年会を兼ねたパーティーを開きました。

七十を超えた人、なろうとする人一四十七名の初老の男女の集いではあります。が、スイングジャズを基調に絶妙のかけ合いでプロが演奏するピアノとヴァイオリンの洗練されたリズムに乗って微妙な活力と開放感が醸し出され、盛り上がるままに午後六時からの三時間が瞬く間に過ぎてゆきました。

青木政之君のハーモニカ演奏には、予期しなかった



だけに驚きました。そのテクニクはなかなかのもの。で、聞けば高校時代から知る人ぞ知る名手だったとのこと。才能のある人が結構いたんだなあ、と妙に感心させられました。宴酣ともなると高揚した気分からジャズヴァイオリニストの女性に気に入ったとツーショットを求める男性も複数いましたし、沢田掛子さんは突然見事なヨガのポーズを披露してくれました。牀の老化が著しい私たちに想像し得ない柔軟さにこれまたビックリでした。

最初に松井健君が挨拶し、会の案内文が気に入ったと参加理由を述べてくれました。その前文は「チエホフは言った。男とつきあわない女性の色褪せる。女とつきあわない男性は馬鹿になる。」云々です。



「なるほど名言だ」と思えました。

高四期は、関西在住の有志が軸になってこのような会を年二回開催しています。夏のシーズンには「ハワイアンパーティー」を定期化し、いずれも四十名前後が天気に参加されますが、毎回新鮮な出会いを愉しむことができ、開催の意義と受け止めています。

平成十六年には同期全員が古希を迎えます。これを祝って催しが企画されるそうです。趣向はどうあれ、出会いの機会が増えることは嬉しいことです。是非みなさんご参加ください。

第十四同期会

吉田 裕理子

平成十五年十月二十五日（土）卒業四十周年と還暦を祝う同期会をホテルアイボリーにて開催いたしました。

前回リーガロイヤルホテルから四年振りとなりましたが、お天気にも恵まれ吉本清先生、井上まさ先生を来賓とし、東京や横浜、藤沢といった遠方からの参加者を含め七十名が集まりました。

五月二十五日、ヒルトン大阪に於いて卒業五十周年を祝う記念同期会を開催し

卒業五十周年記念 五期会

橋本 喜久子

りという方もおられ、なつかしい思い出話にいつしか気分は十八才……。久し振りに友情を深め、心も身体も元気になった一日でした。ご両親の介護やお孫さんの世話、各種会合等で欠席の方々からも沢山の近況のお便りをいただきました。当日のプログラムに掲載し、それぞれお元気で活躍の様子を皆様に披露させて頂きました。同期会開催にいつもお骨折り下さっています森野会長や松尾さん、溝田さん、役員の皆様に感謝しつつ、次回四年後、四十五周年記念同期会にはより多くの元気なお顔にお目にかかれるのを楽しみにしております。



第十五期卒業四十周年 記念同期会

大島 光昭

平成十五年九月二十七日（土）ホテルモントレ大阪にて、恩師四名、還暦前の同期生六十九名の出席で開催しました。卒業十八年で第一回目を開き今回が五回目でした。

蓮江久美子さんのヴァイオリン演奏、別所多嘉さんのピアノ伴奏による「アヴェ・マリア」の曲で十五名の物故者を追悼、黙祷し開宴。まだまだお元気な井上まさ先生のご挨拶のあと、高橋桂四郎先生、飯尾和義先生、中西昭次先生にも近況を含め、在学当時の思い出話を語って頂きました。乾杯は現豊中中学校長の上田幸子さんが音頭をとり、食事歓談に入りました。

各テーブルでの話題は、五年前の同期会と違って、もっぱら男性はリストラ、早期退職・転職等の仕事関係が多く、女性も親の介護、孫の話、共通しているのはお互い健康のことでした。蓮江、別所さんの生演奏を聴き、高校三年生、校歌他数曲を全員で合唱し、次回五年後の同期会ほとんど年金生活者の集まりになるの



ではと思っております。二次会はほぼ全員が、ホテル内の別の部屋へ移動し遅くまで語り合いました。

二十九期同窓会レポート

幹事 山澤 健二

昨年の十一月十六日、ホテルアイボリーで、二十七年の星霜を経て、初めての全日二十九期同窓会が開催されました。「同窓会実行委員会」が、桜の季節に蒔いた「友情の種」は、紅葉の季節に、見事な実を結びました。その実が、四半世紀を経て、瑞々しい香りを放ち続けていることに、出席者全てが驚きました。

久しぶりに同窓会を開かれた方は、経験済みでしょうが、高校生活を共にした仲間、無意識のうちに、精神の一部として共生しているようです。

今回の同窓会は、立ち上げから事後処理まで、「パソコンを駆使した」という点で特記されると思います。この手法は私達より若い世代では、必ず活用できます。

まず名簿の穴埋めですが、二十七年という年月は余りにも長く、尚和会発行の名簿がなければ、作業は進まなかったでしょう。これをデータベースとして打ち込みました。それからはインターネットの広場を作り、名簿をアップし、掲示板で情報交換しました。もちろん電話や手紙も併用しながらの作業です。ここで準備万端と、案内状を発送したので、それにはメールアドレスの欄を添えました。大概の方が携帯電話かパソコンを使って、名簿を送って改めて、名簿を埋めながら、当日まで盛り上げていきました。今なおインターネットの広場は継続して、数十人の仲間が集い、毎日雑談しています。

さて、当日の報告です。

小春日和の中、百十人の仲間と五人の先生が列席してくれました。我々の年代は単身赴任が多く、全国各地からの参加になりました。なにせ二十七年振りというので、緊張しながらの開会でしたが、ほんの数分で、昔のままの会話が蘇りました。今でも不思議でありません。

二次会でも九十人、三次会でも五十人が残り、今年にはクラス単位の同窓会が、花盛りでしょう。会の様子はデジタルカメラで撮影しました。そして三百二十枚をCDにしてコピーして、みんなに配っています。嫌がる女性を無理矢理口説き落とし、参加者全員の顔写真と名前を添えました。



ました。きっと生涯の思い出になるはずですが、最後にになりましたが、五万円の助成金は大いに役立ちました。今回の成功の一因だと思っています。貴重な会費の一部を使わせて頂きまして、感謝しております。

定時制第七期卒業 同期会「桜灯会」 を開催して

居附 ふじ子

木枯らしの吹く寒い一日でしたが、三年ぶりに第十一回「桜灯会」を開催いたしました。恩師の寺本先生を迎えて、出席者二十名という少し寂しい同期会となりましたが、それでも久しぶりに再会できた喜びに、次第に声も大きくなり、笑い声や、席を立つ人で賑やかな雰囲気となりました。身振り手振りで話される恩師の挨拶に定時制高校時代の授業を回想したり、一部の男性の悪ふざけに爆笑する場面もあったりでとても楽しい一時でした。

出席者一人ひとりの近況報告では、誰もが、老後の生活設計をしっかりと立てているのに感心したり、何人



に過ぎ、二年後の再会を約束して散会しました。

(開催日 二〇〇三年十一月二十三日)

昭和三十三年卒

同期会の報告

定八期 田邊 昭夫

昨年十一月二十三日(日)ホテルアイボリーにて実施しました昭和三十三年卒同期会「久しぶりとい」についてご報告致します。

かは現在も社会と何らかの接点を持ちつつ今なお働きつづけていることを知り、私たちの同期生はこの年齢になっても勤勉で、堅実な人生感を持って歩んでいることをたのしく思いました。出席できなかった他の人達とも是非再会したいものです。

今では、私達が高校生であつた頃の社会情勢とは、すっかり様変わりしてしましました。「イラク戦争」の暗い世界情勢や、身近で次々に起こり続ける様々な危険に、私達の子どもや孫達、そして現在の若者は未来に向けて何を目標に努力し、生きて行けばよいのかと、私自身不安を抱いておられます。



当日は小春日和で暖かく、二年前の二十五名に対して今回三十名の出席で、先ず記念写真を撮りスタートしました。恩師樋口先生、岩本先生からご挨拶を頂いた後、小川さんの乾杯の音頭で、のどを潤しました。今回は東の埼玉県から田辺(水谷)さん、南の宮崎県から甲斐(飯干)さんが遠

方からの出席の中、各テーブルでご歓談いただき、舞台では西本さんの手品三昧の余興で拍手が続きしました。そのあとは五年ぶり、五年以上の方々からの近況報告に耳を傾け、親交を深め、楽しいひとときを過ごし二年後の再会を約束しました。

尚、当日出席出来なかった方々に当日撮影しました記念写真(写真配列順の氏名表添付)と同期会開催報告を送らせていただきました。

小川尚子さんを偲ぶ

高校四期 北野 定子

十五年六月二十五日に小川尚子さんが逝去されました。皆様もご存知のように、尚和会と四期生のお世話会を四十年献身的に尽してこられました。その間、尚和会

総務担当副会長として十二年間、理事会を始め役員OB会のお世話や名簿の作成、毎年の名簿の整理、更に、四期会のお世話等々を中心になってやってこられました。共に二十年間関ってきた一人として、ずっと変らない彼女のご努力とご苦勞に感心していました。昨年四期生の卒業五十周

年記念祝賀会が終わり、後片付けも済んでやれやれと思つた八月、突然入院され、手術を受けられて、一時は回復されましたが、長い療養生活の後、皆様にお知らせのないまま亡くなられました。私も長いお付き合いを思いこれからも大切にしたいこうねと言っていた矢

先にお別れの言葉もなく逝つてしまわれて唖然としました。今は晩歌を捧げた心境です。思えば祝賀会が盛大に無事終わり、にこやかに締め挨拶をされて彼女にとっては最後の花道になったのではないかと思つています。又、地域社会

にも貢献されたりで最後まで自分の人生を貫かれた生涯にご自身満足されているのではないかと思います。なお、通夜、葬儀には尚和会、四期会からも多数のお参りがありました。心からご冥福をお祈りいたします。合掌

幸せは天国にもあり花野 径

「山岳部」(回数も古希を超えたOB会)

高十一期 山本 義生

我がOB会は、今年二月十一日の集まりで七十四回

目を迎えました。山歩き、メンバーの自宅での歓談、時には公民館での新年会等々……この会報が出る頃には第七十五回目(四月十八日、生駒山山歩き)を祝っていることでしょう。

後藤先生(平成十二年四月三日永眠・合掌)は九十六歳まで、OB会長として我々と一緒に山を歩き、盃を傾け、熱き議論を交わし、永眠される一週間前まで次の集まりを楽しみにしておられました。

この「熱血大爺(オージ)」の意思を継いでその後は、数十年前は北摂のアランドロンと言われた内田先生を新会長に、何と七十五回目を迎えることが出来ました。大番頭の黒パン(三期生、色黒く顔丸く声でかく、山では鬼と化す)、東西の名ある大学山岳部のメンバーから「桜塚のOBに異才あり」と一目置かれる十八期のE、エベレストに挑み惜しくも七千三百mで涙をのんだ十八期のM、疲れを知らず何を食つても下痢知らずの元日本山岳会員相澤先生、山にも強いが酒にはもつと強い十一期のS、その他会社経営や家業の多忙な中を奇跡的に皆勤とるんやろか、もう死んだ



んちやうか?と噂される頃になるとヒョコッと顔を出す某や某……、勉強は今いちだった、山を愛し友を慕う連中が毎回少なくとも十数名は馳せ参じて、今日に至っています。

「社会に還元出来るものはないか?」が最近の中心話題です。志高く、楽しく有意義なOB会が今年も来年もずっと続いていきます。ではまた。皆様お元気で!



お便りから

平成十五年四月から平成十六年三月までにお送り頂いたものを掲載しています。



高九期 森 寿賀子

夫の勤務地で親しくなったサークル仲間と年一、二回の温泉旅行を楽しんでいます。昨年で二十年になりました。

高十期 下元 淳子

会報を御送付下さいまして有り難うございます。お世話して下さいます方々いろいろと御苦勞様です。母校の発展を祈念致しております。

高十期 山口寿三枝

いつも会報ありがとうございます。平成十七年八月茶道部が五十周年を向えます。万博のお茶室へお集まり下さい。長谷川先生御健在です。

高十期 谷 辰子

会報、有り難うございます。そして、お世話して下さいます役員の皆様、本当に御苦勞様です。今後共宜しく願います。

高十五期 宮嶋 勝

旧姓河野です。五月十八日の総会には出席します。なつかしい顔にあえるかなとたのしみになっています。お世話になります。

高十五期 奥野 靖行

タイ・バンコクへ単身赴任十五年目、十五期の仲間が男女を問わず毎年ゴルフとゴルフツアーで来てもらえるのが唯一の楽しみです。

高十五期 河本 啓司

NTT人生も残り二年、早く卒業して人間らしい、年寄らしくない人生を歩みたい。

高二十期 山口 恭史

今回の会報のカラーの多さには驚きました。従来にも増して楽しく拝見しました。昨年の同期会も楽しかったのですが、音楽部のそれもできればな、と思うこの頃です。

高二十期 伊丹 順子

いつも会報誌の送付有難うございます。先日会報で井上まさ先生、牧先生のお元気なお姿を拝見して、嬉しくなつかしく思いました。両先生によりしくお伝え下さい。

高二十一期 岩井 角夫

いつもご苦勞様です。桜塚高校の尚和会のご発展をお祈りします。

高二十八期 大江さやか

年を重ねるとともにクラス会や同窓会が多くなり、楽しいものです。

高三十期 藤田 直子

会報の写真の中になつかしい先生のお姿を見つけ、今秋の二十五周年同期会には参加してみようかと思えます。

高三十期 門田 晃代

高校を卒業してはや二十五年！二十才で生んだ長女も社会人となり、毎日がスピードとの戦いです。母校のご発展と活躍をお祈りいたします。

高三十期 浅井 歩

結婚して音信不通でしたが、尚和会から会報を送って頂き、大へん有難く感激しました。これからもよろしくお願い致します。

高三十一期 平松 揚子

ひよんなことから、卒業以来の級友と再会することとなりました。今では在学時より、親しくお付き合いしており、たまに「美味しもん」を食べに行ってます。皆様、お変わりありませんか？

高三十五期 森本 克美

街角で桜塚の制服姿の生徒さんを見つけると、懐しく、「ホッ」とした気持ちになります。

高三十七期 松下 和子

毎年楽しみにしております。シンガポールに修学旅行なんてすごい！うらやましい。私達はスキーでした。

高定七期 佐々木好一

懐かしい昔にしばし、私を誘ってくれる。尚和会誌を有難うございます。ゆく人生を惜しんで、私を豊かにし、成長させてくれた「夜桜」でした。古き良き青春時代を思い起こさせてくださった記事に感謝です。

高定十三期 中岸 澄江

本年、私達は母校を卒業して四十周年の佳節を迎えることができました。毎年開催している同期会も、今秋は記念して一泊の予定です。

平成十五年 物故者名

(平成15年1月1日～12月31日まで)

旧職員	谷口 光子 (安東)	高四期 滝口豊四郎 (磯田)
15・12・31		15・5・30
近松 淳一	15・11	杉山 直弘
高女二期		15・7・12
大浜多美子	15・4・23	小川 尚子 (勢井)
原田 君子 (塩谷)		15・6・25
15・6		高八期
高女三期		森本美智子 (並河)
小山 昭子 (貞永)		15・3・15
15・8		山下 恭三
高女四期		15・6・26
高山 道子	15	高九期
高女五期		西岡 猛
佐藤由紀子 (加藤)		15
15・7・23		高三期
河辺富士子 (北川)		比村 三郎
15・4・13		15・6
安藤 光子 (北村)		名嘉山洋子
15・9		15・4・12
占部 禮子	15・12・29	小城輝美代 (光田)
高女七期		15・7
中村 和子	15・12・7	高一五期
		刀禰 賢
		15・1・19
		高二十期
		阪田美恵子
		15・3

(尚和会宛に報告のありました方のみ掲載。)

『校歌』の作詞・作曲家

長瀬 尚



高校校歌は、生徒はもとより保護者や教職員にとっても愛される歌です。本校の校歌は、昭和十三年(一九三八年)に制定されたもので、作詞は長瀬尚先生、作曲は長瀬尚先生と、尚先生一人の力作です。尚先生は、本校の創立者であり、校長として三十一年間、本校の発展に尽くされました。校歌は、本校の歴史と伝統を伝える重要な役割を果たしています。尚先生は、校歌を通じて、生徒たちに本校の精神を伝え、愛着を持ってもらうことを目指していました。校歌は、本校の誇りと誇りであり、生徒たちの心を一つにする力があります。校歌は、本校の歴史と伝統を伝える重要な役割を果たしています。尚先生は、校歌を通じて、生徒たちに本校の精神を伝え、愛着を持ってもらうことを目指していました。校歌は、本校の誇りと誇りであり、生徒たちの心を一つにする力があります。

平成十五年度 会報年会費協力金

◆協力を金をありがとうございます◆
(金額は納入合計額。千円未満の納入会員は省略させていただきます。)

●旧職員

近松淳一(一見)遊芸
倉田順雄 酒井 孝
岡崎博義 富山敏郎
飯尾和義 水田紀久
石橋勘一郎 田代徹也
田中恒雄 鶴崎熊太 永瀬弘勝
栗栖恭子 町野道昌 山本弘
柳沢千吉 岡安孝教 高岸芳郎
石橋三彦 相澤昂 谷口光子
中川貞子 内田彰 納祐子
二階堂洋 関節子
木元佳子 助永芳子
寺本敏夫 中島敏 前田禮司
千五百円 常田克子 井上まさ
井上馨 井上三郎 加藤勇
神田詩朗 奇二修 京彰彦
行徳康一 沖千鶴 杉木勝磨
関谷茂紀 長尾和栄 福井睦美
尾田翠 森本未知子 池田繁子

●高女一期

越水ユリ 大橋章子
立石房 塚田京子 神本英子
高木春子 小野澤裕子
砂川碧 横谷春子 塩谷明子
内藤純子 樋口由貴恵 矢野鈴子
二宮愛江 清水夫美子 松井敏子
根本規子 阿曾久子 奈須野裕子
千円 岡本千代子 関設子
牧田澄子 岡本千代子 高田睦実
川原由多子 福井信子 富見澤綾子
多谷エイ子 松井信子 東野千鶴子
吉本純子 田原房子 伊藤幸子
森裕子 藤田初枝 岡村祥
滝せつ子 有馬佐和子 平尾和子
金津芳子 丹田寧子 福原直子

●高女二期

川副英子 元山葉津子
堀井敏子 大西アヤ
河合信代 北川富美子 峯田道子
南寿美子 浜田明子 伊藤千恵子
岡本泰子 藤井寿子 近田栄子
河野弥寿子 村田幸子 中之園久美子
下田喜代 有末博子 三浦喜美乃
神保和子 桐口清子 野上聰子
前田房子 樽谷君子 矢田部弘子
藤本真理子 龜本正子 宮本喜久子
角山和子 大河貞子 堀江展子
君塚節子 三浦知子 岡崎美代子
佐藤とし 岡村純子 十川好子
友眞さは 有田良子 大江美智子
戸井美喜子 山庄司玲子 山口恭子
中村みち 照内チツ子

●高女三期

池田きよね 猪瀬綾子
高田瑠璃子 吉田佳子
井上百合子 高木志摩子 山田和子
松溪彰子 尾野上末子 岸上道子
桑山真子 西原成子 森玲子
小倉澄子 武田紀三子 森玲子
竹中和子 吉澤幸子 奥山笑子
菅野万喜恵 西村照子 佐藤春
千円 武田昌恵 浜田綾子 佐伯栄子
千円 鳴海靖子 杉本鈴
侯野加代 吉野良子 森玉子
門津子 西田ふさ江 片山俊子
門川田鶴子 古川寿美江 大古谷子
出口和子

●高女四期

大西ヒロ子 永井徳子
小林三七子 大江悦子
佐藤芳子 鳴川道子
渡辺順 松岡昭代
清水安子 朴木明石 高木三和子
稲益智恵子 村上那 勝野瑤子
池洲茂登代 菊地一栄 三箇山政
加藤愛子 合原正枝 津田静子
河村令子 佐野加岳 藤原秀子
長岡利子 津川敏子 三戸敦子
上山満智子 岡田貞子 河合貞子
小柳恭子 池長十三子 明田清子
山川良子 高橋田鶴子 山田照子
木下時代 森田みどり 橋川定子
岡崎妙子 黒川早苗 島村幸恵
田内弥生 清瀬郁子 桑原茂子
飯塚孝子 古塩孝子 紀田美和
山口慶子 森田昭子 南園
美座喜子 柄田保子 橋本美智子
富樫弥生 三谷良子 辻靖子
上田良子 中野昭子 西山延子
川崎美英 杉原美子 仙台友美
戸梶愛子 岡村素子 本多千代子
松本美智子 守分康子 岡林みどり
酒井百合子 大久保慶子 宮本弘子

●高女五期

西川良子 市川雅子
井上敏子 行岡伸子
巽和子 羽岡美佐子 広美輝子
堀井千代子 内藤葉子 馬淵千代
三井信子 伊藤久子 阪本陽子
奥井信子 伊藤久子 川野悦子
杉山玉緒 正田愛子 北村嘉子
加藤恵美 大里知萬子 二宮昌子
菅原秋子 高橋典子 大郡城和子
二千元 尾方禮子 荒木真智子
山田民恵 宮野信子 荒木真智子
野村喜美子 永澤登喜子 武田祥代
林道子 淡輪美津子 渡辺康子
千円 竹内宣子 野村道子
増田トシ子 荒井佐念子 加藤しづ子
八木信子 岡澤敦子 大塚淑

●高女六期

角川和子 下村和子
森妙子 須藤和子
八田久美子 青木操子 大森英子
千円 本山美智子 山口栄子

●高二期

阿萬紀美子 前田暢子
太田靖子 石川照子
今井篤子 石毛納子 橋本育代
菊池美英子 上田和子 井上明子
大竹多摩子 小西満子 廣田智恵子
田中由子 関原澄子 花井登志子
大久保緑 安村須美恵 獅山英子
小泉節子 真砂迪子 岡本秀子

●高三期

上田英之助 谷田探成
高津弘 赤城左知子
村上松子 山脇千代子 釜谷行蔵
西村進 赤崎豊 上田茉莉子
長谷川春生 佐々木義浩 宗倉節子
高木慶子 小村典子 中村千穂子
森林和子 鈴鹿裕子
春木和枝 増山和子 清水ゆり子
入江敏子 三好陽子

●高四期

中右吉信 林正宏
和田安弘 松田祝三
合田俊章 岩波栄子 金井治夫
井上博輔 岩本真治 三田和弘
高木力 萩原和子 伊藤慶子
千原一元 萩原和子 山本輝子
濱中雅子 水川和子
山本一子 青木政之 池崎邦夫
岩崎文彦 槐島靖夫 阪上祐二郎
杉本成之 西川晴基 原茂雄
湯浅温 桂田仁子 菅原一眞子
大田昌子 宮永加陽子 北野定子
木田茂子 近藤栄子 小林郁子
谷口明子 辻恭子 岸田玲子
横道満子 山口百子 岡本牧子
奥村嘉寿子 菅原慶次 奥田関子
中島昭典 雀部信弘 田中専一
渡部進 塩野美知子 三輪三郎
笠原淑子 安田正江 釜池葉子
木村泰子 内田章子 小八木弘子

●高五期

前田恵男 大槻和夫
竹村忠一 永田政夫 林達雄
今西久代 北之坊美英子 藤井道子
佐藤良子 岩崎幸夫 塩山和彦
瀬尻修三 毛利正幸 山本隆三郎
磯部輝子 木谷隆之 田中義朗
三浦節子 久保喜将 神藤盛二
田中義輝 長谷川陽一 細野善三郎
山口萌三 井上幹子 井上日出子
内山政子 野上瑞子 村上恵子
豊洲俊子 山本璋子 村上寿子
金岡道子 伊藤恭子 岸本喜久子
土井利宏 黒山義明 貞光啓一
中島光夫 長谷川勝三 浦島俊計
中谷道子 松原素子 小畑栄子
辻靖子 橋本喜久子 德地美代子
三浦久子 梁本圭子 盛野安子
辻本差子 古谷信子 村多昂子
名村ちづ子 九陸子 風間美智子
千円 植田安寛 小原一郎
亀井時男 武田武清 萩原直
永田和人 宮田潤 宮口一郎
松浦欣也 中川克子 橋本弘子
中辻美子 吉田美津子 由良昌子
高橋礼子 横川千恵子 伊藤公子
西村幾久子 小野冬子 白上菊枝
児玉雅子 大木静枝 浅田靖子
瀬戸口久栄 浜崎啓子 西尾喜美
高田昌子 西尾英子 吉田広子
岩永多賀 白井菅子

●高六期

萩野哲男 高川順吉
西岡茂和

五千円 塚尾茂治 四万円 澤田作哉 森伊佐子 並河智恵子 二万円 岸本元子 長岡美津子 千円 生富節子 萱村和子 菊川芽子	一色貞輝 奥田泰之 井口慶子 石井禮一 中田雄二 北まち子 小塩正人 服部康子 鷺見孝子 藻井泰顕 長瀬みき子 長谷川由里子 寺辻つや	●高七期 一万 岡本修 山下眞一 雨田忠義 滑川博信 井上真一 森川淑子 磯京子 松浦峻 土橋素子 中野千鶴子 二万円 中井喜信 久枝信之 森田千加子 今枝和子 大西千枝子 中山弘子 畑満季子 千円 長谷川伸一 山崎弘行 小西民子 大谷洋子 柳田和子 山西美恵子 岡美知子	奥田登志子 村川京子 犬塚奈保美 松井令子 中尾美沙子 藤本芳子 渡辺佐保子 川名満江 千円 岩本鈞 辻井清重 山縣啓二 黒田トシ子 黒田トシ子 東正美 新本利子 水野敬子 垣岡和子 前田宣子 寺門安子 中桐実子 上原功子	西村豊 松井崇 中野尚美 新内明子 重広愛子 池田征子 中塚久恵 山脇洋子 田中喜久枝 千円 浦川弘 林義昭 渡部明彦 富士本晃子 眞塚恭子 大上昌子 波部嘉子 増田敏子 河村誠子 藤井睦子 木村三世子 片山幸子	●高九期 六万円 河崎守男 小林啓作 村上三喜男 森寿賀子 三万円 味舌純子 乙政久子 二万円 別所建夫 竹村喜美子 竹居恵子 岡安操 千円 門脇光代 井ノ口常子	田中敏勝 杉浦慶彦 愛葉和壽 長州正恭 四万円 岩崎淳 三上昌昭 日高明敏 川井弘美 二万円 宮廻益穂 山口寿三枝 山田宏子	井内宏子 八木一郎 木村忠夫 神山貞子 西澤芳正 三原弘巳 内藤節子 水谷吉克 久保田扶美子 谷辰子 乾光昭	●高十一期 六万円 吉田友子 五万円 吉田友子 四万円 瀬戸絃一 三万円 久瀬恭子 二万円 西島詩子 船木澄子 千円 遠藤基子	望月光子 山本正一 鳥牧潔 斎藤嘉明 阪本親 森田昌子 山野井茂登子 清位史子 奥野洋子 藤田由子 大石佳世子 稲田翠	●高十二期 六万円 望月光子 五万円 吉田友子 四万円 瀬戸絃一 三万円 久瀬恭子 二万円 西島詩子 船木澄子 千円 遠藤基子	小室泰孝 井上東洋志 森田喜八郎 小田切茂彦 菊池信行	●高十三期 六万円 小室泰孝 四万円 森田喜八郎 三万円 小田切茂彦 菊池信行	●高十四期 六万四千四百円 橋本清之 佐藤勝哉 三万円 吉田裕理子 二万円 鈴木寿美子 一萬二千円 田中渡 吉田和久 五万円 上野山眞杉 四万円 山家雄三郎 三河勝彦 三万円 吉村尤伸 南みち子 中城弘子	吉田和久 黒田八宏 山達雄 女川隆 秦雄三郎 清水成男 清水房子 新谷栄見子 奥村友宏 野口芳男 庄司文子 森崎訓子 久米健雄 高橋吉郎 廣川敦子 石田美那子 中井敏子 室井浩子 山田弘子 北村福榮 上野沙希子	●高十五期 二万円 同期会有志 一萬二千円 南正枝 五万円 川端佳代子 四万円 吉田陽子 三万円 釜本詩子 二万円 河本啓司 山本征夫 阿賀久子 谷本正枝 則枝清子 今泉絃子 二万円 今井康雄 野原哲行	石崎英一 梶正道 三島清 萩原和子 荒川昭 河辺司郎 田川弥八郎 松浦祐三 寒川佳代子 橋本清之 佐藤勝哉 裏辻康秀 森垣房子 山岡ソヤ子 鈴木裕美子 山本文代 建部順子 井出和宏 上村宏 加納昌宏 小松大作 田中一積 福田曉浩 中村泰三 松尾泰好 松尾彰 森本典章 安達寿美子 久保田敏子 富場幸子 岡本美和子 中西淳子 川勝公子	太平耕資 辻井正宏 西尾郁夫 中島三千子 田中佐智子 岡山勇美子 北野洋子 丹生美代子 桑原澄子 村木真樹恵 桑原修三 谷元美 長谷川洋司 宮口里史 山田勝行 前田ひろの 平尾和子 成房呈子 天野元子 北嶋貴美子 山本邦子 清野由紀子	●高十六期 六万円 岩中史朗 五万円 秋山日東志 四万円 大谷士郎 三万円 松浦勇 二万円 青木和代 前田千穂子 多田良 千円 川田益就 不可三隆夫 芝崎良子 塩崎恭子 岩間横子 亀井麻里子 浜口圭子 境公子	小石雅也 小野幸男 伊丹順子 谷村京子 鈴木幸子 田中映子 石之博和 郡守男 長宗輝真 三宅利明 田中房子 渡辺うたよ 久原勢津 島村保子 鈴木明美 木村喜久子	上村学 金山明彦 成山チカヒ 楠井美穂子 近藤律子 中村明子 今泉元子 鈴木和子 黒須益子 鈴木明美 笠井くみ子 山田富喜子	●高十七期 六万円 上村学 五万円 岩崎弘 四万円 波多野誠司 三万円 成山チカヒ 二万円 楠井美穂子 千円 近藤律子 中村明子 今泉元子	●高十八期 六万円 北川悟司 五万円 高門幸子 四万円 金指弘 三万円 堀明美 二万円 古川本子 千円 枝俊秀 平木久恵	●高十九期 六万円 青山由子 五万円 狩野久代 四万円 新谷進 三万円 龍治史子 二万円 長崎陽子 中谷博 小野さつき 千円 北賢二 池田加代 松田仁子 池田愛子 田辺はるみ	青山由子 狩野久代 新谷進 大島順子 久保田文男 段中幸代 十時良久 奥野孝子 細水富美子 吉岡孝子 首藤修一 田中芳州 高木啓子 山口恭史 住田英二 湯上美雪 中野幸男 伊丹順子 谷村京子 鈴木幸子 木梨順之 佐々木由二 深井順治 山中清利 河登能子 中村教子 箕浦公子 児玉邦子 山田富喜子
---	---	---	--	---	---	--	--	--	--	--	---	--	---	---	---	--	--	---	---	---	---	---	---	---

●高二十四期 二千円 梅田純子 宮崎三恵子 多治美左智子 榎本小百合 吉崎恵子 ●高二十五期 六千円 政井俊 山口雄三 永井有里 木代目浩一 齊藤尚子 三千円 島田正弘 藪本潔 中島とも子 橋本千代子 北真澄 久本久子 藤田順子 畑中恭子 二千円 田中加恵子 小合孝子 井野辺志朗 岩崎尚雄 大田雅人 岡田力 落合章浩 金川一郎 佐野文樹 中畑孝一 平松俊 上野陽子 島瀬雅子 安田良子 西藤智子 佐野素子 野桜玲子 雛本貞子 表雅子 田中万里子 西島直子 千五百円 田中一代 糸谷寛 注明 赤川直宣 完城重華 小泉定裕 川畑行弘 関浩二 田中睦治 武田義彦 辻本弘之 深美俊博 松本邦男 村上学 増田永津子 笠原恵子 大山美智子 三原明美 寺岡裕美 麻谷令子 中島恭子 坂本綾子 小野和美 平井敬子 牧野栄子 上田恵子 山崎洋子	●高二十六期 二千円 北美鈴 宿松千恵美 千円 上島登郎 八木尾雅生 ●高二十七期 二千円 神永恵子 国分洋子 千円 水野賢治 児玉順子 林佳子 名越恵子 ●高二十八期 六千円 玉置秀司 五千元 上元一泰 四千元 辻定 三千円 大江さやか 二千円 鷹岡啓江 鈴木かおる 千円 尾上勝 平川善一郎 清水弘子 橋川晃代 小林美恵子 森井八尋	●高二十九期 三千円 木村禎 岸本満 石原知恵子 井上雅代	●高三十期 五千元 松浦聡 山口江美子 三千円 飯橋寿子 藤田直子 佐々木裕子 浅井歩 斎藤知津 荒井万美 明野輝男 曾谷覚 二千円 青木愛子 小松千恵子 松本三保子 石川紀子 田中みどり 千五百円 岸藤悦子 岸上義隆 大城戸郁子 金津直子 辻久美子 大山美鈴 出太鼓尚美 門田晃代 上元朋子 本田裕代 向井紀陽子 林公美子 中畑靖代	●高三十一期 三千円 佐藤清一郎 ●高三十二期 三千円 桐澤裕徳 有泉純子 室佐和子 ●高三十三期 三千円 榊本洋子 菊川雅之 上出高那 ●高三十四期 四千元 綿田康嗣 舟曳千智 濱田菊乃 ●高三十五期 三万二千元 本城靖悟 一万円 姜昌則 衣川秀樹 三島佳典 五千元 松田辰雄 川崎貴世子 森本克美 二千元 乾恒雄 泉昇 奥谷徹 森本満美子 千円 大賀康治 小野大助 梶田浩一 土川康彦 片田和江 川西弥生 斎田洋子 和田由美 竹内正子 藤井左織 山本紀子 安居美香 加藤旬	●高三十六期 三万六千八百円 村上佳津子 ●高三十七期 五千元 飯尾由香里	●高三十八期 三千元 保谷千景 高田恭子 佐田裕子 ●高三十九期 三千元 杉山武司 ●高三十四期 四千元 上田典史 石塚順 榎尾賢一 ●高三十五期 四千元 小林秀一 西岡陸 進藤富美子 ●高三十六期 四千元 北之坊誠人 末政孝宏 ●高三十七期 五千元 森下英利 ●高三十八期 三千元 村嶋隆之 松家慈 後藤田崇 十倉伸二 ●高三十九期 千円 大野輝雄 中嶋康雄 入江香吉美 玉置朋美 松村絵奈 三浦恵美	●高三十五期 千円 大野輝雄 中嶋康雄 入江香吉美 玉置朋美 松村絵奈 三浦恵美	●高三十六期 三千元 上田庸正 和泉亜希子 ●高三十七期 千円 佐々木昭寿 ●高三十八期 千五百円 後藤田稔 ●高三十九期 二千円 山口智枝 中山恵美子 千五百円 中山恵美子 荒川深幸 ●高五十期 二千円 森本浩司 木村光知子 千円 橋本千恵 中田伸吾 山本竜 加藤智子 小林恵子 樋口南海子 皆川沙智子	●高五十一期 千円 小泉正之 藤原耕一 松下聡紀 小田加織 恒田佳穂 松本洋子 ●高五十二期 三千元 佐藤宏明 寺林慎一郎 北坂浩也 清水健一 谷口英輝 永嶋元貴 矢野敏明 野矢あき子 馬越有香 ●高五十三期 三千元 寺本聡 西原貴士 小泉元氣 中島勇貴 大河原由梨 加藤景子 小西真里子 竹本すみれ 恒田麻実 柳瀬可那子 ●高五十四期 三千元 吉田郁代 北坂浩二 杉田智世 井上岳 須賀道友 西川新 大石誠悟 渡辺剛 大中原梨江 栗原綾子 高村未央 中澤那実 兵庫智子 藤井里衣	●高五十五期 五千元 奥間竜太 笠井訓行 金納徹 山下由加里 近藤壮雄 林温子 秋山将 川田哲也 木下崇 上野勝敏 中川潤一 西原誠章 谷口拓紀 久岡秀行 平井健一郎 原田浩平 山本真央 吉田達郎 的場敬太郎 山本真央 大須賀陽子 吉田一朗 内田絵理 片芝千尋 岸本侑子 尾上愛 南野さやか 原田このみ 矢野倫子 山下舞	●定三期 千円 津田利男 ●定四期 五千元 福島和三郎 加藤武司	●定五期 千円 生貝政徳 ●定六期 五千元 木田隆幸 中川豊 高田美代子 ●定七期 一万二千元 岡島勇 岸本弘 佐々木好一 月川憲一 高田正幸 長澤寿一 紅山英世 諸井清二 藪内省吾 平島嘉子 佐藤多美代 木原進 西川政好 ●定八期 五千元 野田忠勝 塩貝正子 四千元 山内勲 田邊昭夫 三千元 今井弘 関谷武 二千元 西本寛 荒木富子 千円 若井輝雄	●定九期 五千元 大谷收 花房秀子 ●定十期 千円 森田節子 ●定十一期 二千元 伊美修 ●定十三期 一万二千元 小畑貞夫 宮脇利夫 中岸澄江 川合一郎 ●定十八期 一万二千元 中島健二 前田福太郎 竜木矩子 ●定二十五期 三千元 大野裕次 出口敏雄 ●定三十三期 千円 橋本清 ●定三十八期 三千元 飯田勝彦	●定四十一期 千円 高見歩 ●定四十二期 四千元 前川良司 ●定四十七期 千円 宮田和子 ●定四十九期 二千元 山口節子 ●定五十期 千円 吉崎孝昭 ●修二期 千五百円 馬場勇氣	☆お詫び☆ 次の方々が、昨年度の会報に掲載漏れでした。謹んでお詫び申し上げます。 ●高女五期 四千元 堀井千代子 弘中敏子 ●高女六期 三千元 近藤ひさ江 ●高女七期 六千元 森田玲子 河野美恵子 ●高五期 三千元 濱道彦 ●高四十四期 二千円 三木正道 十倉伸二 ●高四十九期 千円 平野文秀
---	--	--	---	---	--	---	---	--	--	---	--	---	---	--	---

平成十五年度総会

行事委員 柳井真知子

桜塚高校尚和会 懇親会



平成十五年度の総会、懇親会は、五月十八日（日）にホテルアイボリーにて、開催されました。

会員、来賓合わせて、九十六名の御参加を頂き、ビュッフェ形式のお席に座わって、ゆつくりと御食事をして頂きました。

アトラクションの方は、卒業生（四十期）の幸田聡子さんのヴァイオリンで、とても素敵な演奏に、皆様うっとりされて、美空ひばりさんの曲目には、一緒に小さな声で、口ずさむ方もあり、とても素敵な時間を過ごさせて頂きました。

閉会後は、CDの販売やサイン会もあり、とても気が



さくでお美しい幸田さんにお会いでき、皆様、喜んでおられました。

今年は、卒業生ではないのですが、「アヴァロン」という男性一人と女性二人のヴォーカルグループで、ポップスからシャンソンあらゆるレパートリーで、全ての方が、楽しんで頂けると思っております。

ぜひ、お楽しみに、御参加下さいませ。

「第四回 尚和会東京支部総会・懇親会」

二〇〇四年（平成十六年）十月三十一日（日曜日）
尚和会東京支部 支部長 井上 眞一（高七）

隔年の開催ということから四回目ではあるが、支部発足（一九九七）からは八年目となります。毎回の五十〜六十名の参加と、人数は近頃も含めて凡そ千数百名という在籍者の割には少ないなという感じがしますが、尚和会唯一の支部として、同窓会の活性化と発展に少しでもつながって

いつの日か参加して下さる同窓生です。

支部では「一つでも新しい同期会が誕生する」ことを、目標としてきました。同窓会活性化のきっかけは先ず同期会の実施です。平成十三年に実施された「同期会開催助成金制度」の活用状況はどうなのでしょう。また昨年決定されました「会報無料配布」の新設も、会の活動、情報伝達の拡充に有効な施策であり、同期会開催の衆知手段として各期会員の活用を切望します。

今年の支部総会・懇親会は「参加しやすい同窓会」を合言葉に、〇女性会員の会費優待〇三十期以降会員の会費超優待〇魅力の賞品付福引又はビンゴゲーム〇同窓生出演のアトラクションなどを予定し若い方々の参加を歓迎します。

九月初めには「ご案内」を郵送しますが、今回より関東地区在住の同窓生の卒期別名簿を各期別に同封します。親しかった同期生がお近くにいらっしゃるかもしれません、久し振りに連絡をとってみませんか。

声をかけ合って二人でも三人でも十月三十一日（日）に会ってみませんか。十年、二十年ぶりでも顔を合わせればそんな空白の時間は一瞬で霧散します。また、それが同窓の誼というものではありませんか。タイムスリップの刻に暫しの間、身を委ねて懐かし語り合うのも楽しいじゃありませんか。結構煩わしい・場所や日時の設定・内容や予算の検討などは、支部がお引き受けていますので名簿を利用して一声かけてみて下さい。

◎総会・懇親会の概要お知らせ

- 一、場所 東京銀座六丁目 銀座ライオン・ブラッスリー
- 一、時間 正午より（昼食あり）
- 一、会費
 - 男性・一人 八〇〇〇円
 - 女性・一人 七〇〇〇円
 - 三十期半以降会員 一人 五〇〇〇円

- 一、アトラクション 大道芸 笑福亭仁勇（高二九期） 本名 山澤健二
- 一、卒業後笑福亭仁鶴師匠に入門、古典落語、大道芸でチャリティー寄席開催、高齢者福祉に貢献
- 一、福引又はビンゴゲーム

また、今回の会報無料配布制

の対象卒期で、関東地区で同期会を持たれていない会員の方々の参加をお待ちします。東京支部総会についてのご相談・ご連絡は先にご希望の支部連絡先

〒二五三〇〇五三 神奈川県茅ヶ崎市東海岸北三五一二七
東京支部長 井上 眞一
TEL・FAX 〇四六七八三二四〇四

●編集後記●

会報創刊以来初めて頁数が十八頁になりました。十六頁が七周年連続しましたが、昨年度より卒業後五年毎の期に会報の無料配布を実施した結果、例年より約七割増の会員より会報年会費、協力金の納付を頂き、その会員氏名掲載で増頁を余儀なくされ喜んでいました。▼母校の卒業式には毎年卒業として出席させて戴いていますが、「卒業生のことば」はいつも興味深く、四十年前の拙者の時代の卒業式とは隔世の感があり、雰囲気も当時とは大違いで、笑いのパフォーマン스로演じています。K・K、S・H両君が涙ながらに述べた「卒業はしたくありません。校長先生にお願いがあります。桜塚高校を四年制にして下さい」との言葉を聞き本心に素直らしい三年間の高校生活を送ったのだと思います。▼六ページでも紹介の通り、平成十六、十七年度の二年間、新役員でスタートしました。今迄以上に尚和会活性化に向け努力してまいります。ご期待下さい。大島 光昭